

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第3区分

【発行日】平成24年8月9日(2012.8.9)

【公開番号】特開2011-16191(P2011-16191A)

【公開日】平成23年1月27日(2011.1.27)

【年通号数】公開・登録公報2011-004

【出願番号】特願2009-162154(P2009-162154)

【国際特許分類】

B 24 B 9/14 (2006.01)

G 02 C 13/00 (2006.01)

【F I】

B 24 B 9/14 A

G 02 C 13/00

【手続補正書】

【提出日】平成24年6月27日(2012.6.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

眼鏡レンズを保持するレンズチャック軸と、該レンズチャック軸に保持された眼鏡レンズの周縁にヤゲンを形成するヤゲン加工工具と、を備える眼鏡レンズ加工装置において、前記ヤゲン加工工具は、レンズ後面側のヤゲンを形成する第1加工部位と後面側ヤゲンに連結するヤゲン肩を形成する第2加工部位とを持ち、

前記第2加工部位は、第1加工部位との境界点を始点として第2加工部位の終点に至るまでに、前記境界点を通って前記レンズチャック軸の軸線に平行な線からの距離y nが徐々に増加すると共に、距離y nの増加率が終点に行くにしたがって少なくとも2段階で徐々に大きくなっていることを特徴とする眼鏡レンズ加工装置。

【請求項2】

請求項1の眼鏡レンズ加工装置において、前記第2加工部位は、前記増加率が終点に行くにしたがって連続的に徐々に大きくなる曲線形状が少なくとも一部に含まれていることを特徴とする眼鏡レンズ加工装置。

【請求項3】

眼鏡レンズ加工装置が備えるレンズチャック軸に保持されたレンズの周縁にヤゲンを形成するヤゲン加工工具において、

レンズ後面側のヤゲンを形成する第1加工部位と後面側ヤゲンに連結するヤゲン肩を形成する第2加工部位とを持ち、

前記第2加工部位は、第1加工部位との境界点を始点として第2加工部位の終点に至るまでに、前記境界点を通って前記レンズチャック軸の軸線に平行な線からの距離y nが徐々に増加すると共に、距離y nの増加率が終点に行くにしたがって少なくとも2段階で徐々に大きくなっていることを特徴とするヤゲン加工工具。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

上記課題を解決するために、本発明は以下のような構成を備えることを特徴とする。

(1) 眼鏡レンズを保持するレンズチャック軸と、該レンズチャック軸に保持された眼鏡レンズの周縁にヤゲンを形成するヤゲン加工工具と、を備える眼鏡レンズ加工装置において、

前記ヤゲン加工工具は、レンズ後面側のヤゲンを形成する第1加工部位と後面側ヤゲンに連結するヤゲン肩を形成する第2加工部位とを持ち、

前記第2加工部位は、第1加工部位との境界点を始点として第2加工部位の終点に至るまでに、前記境界点を通って前記レンズチャック軸の軸線に平行な線からの距離 y_n が徐々に増加すると共に、距離 y_n の増加率が終点に行くにしたがって少なくとも2段階で徐々に大きくなっていることを特徴とする。

(2) (1)の眼鏡レンズ加工装置において、前記第2加工部位は、前記増加率が終点に行くにしたがって連続的に徐々に大きくなる曲線形状が少なくとも一部に含まれていることを特徴とする。

(3) 眼鏡レンズ加工装置が備えるレンズチャック軸に保持されたレンズの周縁にヤゲンを形成するヤゲン加工工具において、

レンズ後面側のヤゲンを形成する第1加工部位と後面側ヤゲンに連結するヤゲン肩を形成する第2加工部位とを持ち、

前記第2加工部位は、第1加工部位との境界点を始点として第2加工部位の終点に至るまでに、前記境界点を通って前記レンズチャック軸の軸線に平行な線からの距離 y_n が徐々に増加すると共に、距離 y_n の増加率が終点に行くにしたがって少なくとも2段階で徐々に大きくなっていることを特徴とする。